

木曾 木曾川萩原沢

萩原

【日時】 2015年6月20日(土)~21日(日)

【メンバー】L田邊、吉澤、萩原

この沢、数少ない記録では萩原沢と書いている人がいた。なんとも素晴らしい名前の沢ではないか。梅雨で天気を読めないなかの田邊さんの提案に、僕は快く承諾した。

6/20(土)

前泊地に良いところがなかなか見つからなく寝るのが遅くなってしまったため、少し遅めのスタートだった。

入渓してすぐに堰堤が続く、入渓点から7個目、番号にして10号目まで堰堤があった。

高巻き続けてすんなりと最後の堰堤の上に降りられた。第一印象は沢が広くて気持ちがい！今までこの時期は奥多摩、丹沢、奥秩父にしか行かなかったため、広い沢に来れるということに喜びを感じた。

堰堤が終わってすぐにCS滝が現れた。なかなか迫力があるが登れそうもなく右岸から巻いた。天気もそれなりに良く暑く、早速次のよさげな場所ですりすまし滑りをして遊んだ。

**奥多摩、丹沢じゃこれはない!**

進んでいくと勢いよく流れるトイ状の滝が出てきた。空身になり、田邊さんの肩、手をスタンスにして上がり水流中のクラックに両腕を突っ込み、なんとか水流から体を持ち上げて突破した。

**中央稜が聳える**

その後の滝は直登は厳しく、左岸にショルダーを使ってあがり高巻いていった。そこからしばらくすると開けた沢の真ん前から中央稜がセリ出てくる。ガスが濃くなってきてチラチラと出たり消えたりするのが幻想的だった。

そこから少しのところですら大きく沢が開けて右岸には大岩壁が広がる。

水が一時的に伏流気味になるので、そのギリギリ手前まで着た。岩だらけで快適とは言えず、かなりの土木工事をして、3人がギリギリ泊まれるス

ペースを生み出した。宴会中にたまに雨が降ったりすることもあったが、タープのおかげで全く不快ではなかった。

6/21(日)

翌日は出発する直前に雨が降ってきた。昨日の雨より多いようで、沢ぞいにあった焚き火はすぐに浸水してしまった。なんとか早く抜けられるよう頑張ろう。

しかし行動開始してしばらくすると、3段の連瀑が出てきた。本流を見てみると、微妙にクラックがありルートが繋がっているように見えるが、増水からか全てのホールドに水が流れており、どうも取り付く気がしない。左岸の泥壁ルンゼには軽く偵察がてら取りついてみたが、ポロポロですぐに抜けられそうではない。結局右岸の滝を一段8m程登り、そこからザイルを出して急な草付を登ってトラバース、本流の上にすんなりと降りた。



側壁、大岩壁

そこを抜けると、沢は狭くはないが、両岸に立派な岩壁が聳えるゴルジュ?の様相を示す。雨がひどいので岩がハングして天井となっている所で休む。ここはよく見たらかなり古いボルトが打っており、人工ルート化してあった。よくこんな所に…

その後はガレガレの沢をツメる。傾斜もあり、浮き石だらけでかなり慎重になる。

体積にして人の半分くらいある岩が普通に流れ落ちそうになる。ツメて尾根に乗り、少し藪をこいだら独票に出た。天気はあいにくだが、風はそこまで強くない。すぐに下山にかかった。最初の3分ぐらいは踏み跡のよ

うなものがあつたが、すぐにわからなくなる。そのまま降り、滑川二ノ沢となる。ここに入って最初もかなりガレガレだ。そしてガレ

場に加えてかなり滑りやすい。早く帰りたい気持ちのせいとか何度も転んでしまった。

なるべく沢を避けながら歩いて本流と合流、今回はこのまま沢を下降するとする。

こちらは多少歩きやすく、すんなりと進めた。

しばらく進んで、最後には大きな堰堤が遠くから見え、その脇に地形図には載っていない林道が出てきて簡単に歩いていけた。明神の小屋に繋がりそのまま東野集落付近にある車に戻る。距離はかなりあるが、あとは歩くだけだった。

——ここで終了と思われた。しかしその後、戻る途中から僕が一人で車を取りに行くことになった。登山道と車道を交互に行くようなところがあり、僕はスマホGPSとにらめっこしながら歩いていた。するとなんということだろう、わけがわからないところに来てしまっているではないか…結局車までの道がわからなくなり吉澤さんに救助を要請し、一緒に車まで行ってもらった。結果として僕は登山道の標高より3,40m下において、それでも登山道に乗っていることを示すGPSに惑わされたのだった。沢では迷子になったことはないがほとんど下界の領域で迷子になってしまった。GPSは短絡的に信用してはダメですね。吉澤さん、最初信用しないですみませんでした!

【グレード】3級

【行程】

6/20 出発(8:30)~4mトイ状滝

(10:40)~1250m 付近テン場(12:20)

6/21 テン場発(6:50)~山頂(9:50)

~明神の小屋(13:10)

【地図】木曾・福島



萩原沢の林道に溶け込む萩原

